

平成27年度 学校自己評価アンケート『構築シート』

No. 3

評価項目	平成27年度 具体的な手立て	平成27年度(前期) 評価の分析	平成27年度(後期) 評価の分析	平成28年度 具体的な手立て
思考力・判断力・表現力の育成	○引続き「工夫ある授業」「話し合い活動を取り入れた授業」の充実を目指していく。 ○次年度に向けては、さらに「話し合い活動の仕方の充実」「内容の高め合い方」「受け取ったものを『表現』する力」をつけるための取組を研究担当と連携しつつ進める。 ○小中連携の取組の一つとして、教科ごとに連携のための会議を持つ。	【授業】 ○授業がわかりやすく楽しいと感じている生徒が増加している。(63P→80P)また、保護者も、肯定的な評価が昨年度よりも5P上昇している。これは、教員の授業改善への意識の高さ(90P)に裏付けられていると考えられる。 * 2学期の授業公開研修を機会にさらに授業改善を図る。 * 小中教科連携会(10月)でさらに研修を積む。 * 受信・思考・表現のプロセスを意識する。 【言語活動】 ○生徒は、自分の考えを人に伝えることに苦手意識があると考えられる(68P)。一方で、教員は、話し合い活動を授業に積極的に取り入れている意識が高い(91P)。この意識の違いを埋めることが、2学期以降の課題である。 * 生徒が表現しやすいような発問や言語活動を工夫していく。	【授業】 授業がわかりやすく楽しいと感じている生徒が昨年度よりも増加している。(63p→75p)また、保護者も、肯定的な評価が昨年度よりも6p上昇している。これは、教員の授業改善への意識の高さ(80p)に裏付けられていると考えられる。 * 今年度の研究テーマを道徳から授業改善にシフトし、七校園交流研究会・校内研修などで教員意識の向上。 * 課題解決型学習スタイルの定着とねらい・まどめを意識した授業実践。 【言語活動】 生徒は、自分の考えを人に伝えることに苦手意識があると考えられる(73p)。ここ数年で徐々に向上してきている傾向は、教員が話し合い活動を授業に積極的に取り入れた成果だと考えられる。同時に、学年が上がるほどポイントが高い傾向がみられ(3年80p, 2年70p, 1年63p)、発達段階における自己肯定感の育ちと話し合い訓練の積み重ねの成果だと考えられる。	○課題解決型授業 (生徒の活動を通して課題を解決することで、授業に自主的に参加させることで楽しく学習させる。) ○ねらいとまどめを重視した授業 ○受信・思考・表現のプロセスを意識した授業 (受信:思考力・表現力を育成するためのスタートとして重要な役割を再認識する。) (思考:考えるための基本的・基礎的事項にも重点をおく。グループ学習の研修。) (表現:生徒が表現しやすい発問の仕方を工夫し、言語活動を充実させる。グループ学習の研修。)
自他を思いやる心の育成	○道徳の授業を楽しみにしているという思いが増えるように、引き続き授業の形態や話し合い活動、教材等を工夫することが必要に思う。自分の意見を言うことや他者と意見交換をすることが楽しいと思えるといので、普段から意見の言いやすい雰囲気づくり、環境づくりに努めたい。さらに、協同学習や学び合いの手法も研究したい。 ○保護者については、引き続き授業内容や生徒の感想などを知らせることができるといように思う。できるだけ負担が少なく、わかりやすい方法を検討したい。 教職員については、さらに自尊感情が育まれるように、行事の取り組み方などを工夫して、生徒が周りから認められる機会が増えるように考えていきたい。	○道徳の授業が生活に役立っていると感じている生徒が7割近くに、さらに人を大切にしているという項目については9割を超えていることは現在の道徳教育が良い方向に向かっていると考えられる。心磨き清掃なども関係していると思われる。今後も日々のあらゆる場面で人間形成を視点に教育活動を展開していくことが求められていると考えられる。 ○教職員の道徳の授業への取り組み度が低いのは前期が学校行事に追われていることが考えられる。後期は輪番道徳もあるので好転すると思われる。	○前期と比較してすべての項目でポイントが上がっている。後期に行われた輪番道徳が生徒の意識を高めていると考えられる。また保護者の意識が最も高くなっている(+3.9p)ことから、学校で行われている道徳的な活動が生徒を通じて伝わっていると考えられる。 ○道徳の授業で学習したことは生活に役立っていると感じている生徒は68.8pで依然として7割を下回っている。心の変容から道徳的な実践力へすぐにはつながっていないことがうかがえる。実生活の場面を想定しながら自分のこととしてとらえることができるように授業を改善していく必要がある。また、思うだけでなく行動につなげることができるようにすべての教育活動の中で意識させていくことが大切だと思われる。	○輪番道徳の継続 ○心磨き清掃、放送の継続 ○教職員の道徳の授業についての研修 ○講演会の実施 ○掲示物による啓発
特別活動	【係活動・生徒会活動】 生徒会執行部、各専門委員会の活動の可視化を、掲示物等を充実させることによって進めるよう、それぞれの委員会に依頼する。 【部活動】 それぞれの部活動で保護者説明会を行ったり、細やかな生徒への指導を行ったりすることが重要であると考えられる。さらに生徒、保護者の信頼を得るためには、部活動便り等、定期的な情報提供を行うことも有効ではないだろうか。 【清掃・掲示物の整備】 教職員一人ひとりの気付き清掃前放送を継続し、生徒会執行部でこれから展開していえる心磨き清掃への取り組み(心磨き集会、掲示物等)を充実させるなど、様々な手法で生徒の心へ心磨きの重要性を訴えかけることが必要なのではないだろうか。	【係活動・生徒会活動】 昨年度の後期から比べると意欲的に活動できている生徒が増えている。委員会や係の活動など、協力して行っていると考えられる。 【部活動】 生徒は意欲的に活動できている。保護者との信頼関係が良っており、生徒が一生懸命活動できる環境ができていると考えられる。 【清掃・掲示物の整備】 心磨き清掃が2年目となり、清掃に関しての意識は高くなっており、その結果、校内美化に努めている生徒が多くなってきていると考えられる。またそれにより、教員も普段から清掃や掲示物への意識が高くなってきていると考えられる。	【係活動・生徒会活動】 係活動や生徒会活動への意識が高く、意欲的に活動できている生徒が多い。高い意識のもと、協力して行っていると考えられる。 【部活動】 意欲的に活動している生徒が多い。教員側からの保護者との関係は変わらないが、保護者側からの信頼関係が下がっている。 【清掃・掲示物の整備】 心磨き清掃が2年目となり、清掃に関しての意識は高くなっており、その結果、校内美化に努めている教員・生徒が多くなってきている。また掲示物等、整美されてきている。	【係活動・生徒会活動】 生徒会や専門委員会の活動をさらに活発化させるために、各委員会で新しい取り組みの検討をしていく。また、委員会ごとに協力しての取り組み(あいさつ運動など)を考えていく。 【部活動】 それぞれの部活動で保護者説明会を行ったり、細やかな生徒への指導を行ったりすることが重要であると考えられる。さらに、部活動だよりや定期的な情報提供を行うことなど積極的に行うことが必要であると考えられる。 【清掃・掲示物の整備】 意識が高まっているのでさらに高い目標を持ち取り組むとよい。生徒会や整美委員からの取り組みを考えていけたらと思う。
基本的な生活習慣の定着	○基本的習慣の徹底 ・あいさつにおいては、教員から積極的にしたり、委員会などであいさつ運動を充実させていき、積極的に挨拶ができるようにしていく。 ・チャレンジカードやあいさつ運動、服装点検などをきちんと行う ○相手思いやる気持ちを持たせる ・道徳授業の充実 ・世のため人のために運動	○あいさつ あいさつについては生徒保護者ともに80%半ばで、あいさつに対する意識は高めであると言えるだろう。教職員のポイントが大幅に増加しているのは、前年度とアンケート項目の文言を変え、「あいさつをしているかどうか」を問う設問にしたことも関係しているが、委員会や部活動を通じたあいさつ運動がほぼ毎日行われていることも関係していると考えられる。 ○規則正しい生活習慣 生徒については早寝早起きの徹底がなされていないようであり、保護者の回答からは、3割弱の家庭ではこのことについての指導がうまく行われていないのではないかと推測される。無関心や仕事の都合等、様々な理由が考えられる。 ○ルール・マナーの遵守 この項目については三者とも意識が高く、生徒には「良き人であろう」とする心があり、またそう思う心と育てる教育を学校・家庭・地域それぞれで取り組んでいると考えられる。	○あいさつ あいさつについては保護者・教職員は80%半ばで、生徒は概ねあいさつができているように考えているが、生徒自身は70%台後半と、少しの意識差が見られる。ただ体験的には、生徒のあいさつは、昨年と比べるとかなり良いものとなってきており、引き続き積極的なあいさつが見られるよう、様々な工夫をしていきたい。ポイントからも、教職員があいさつがよくなったと感じていることを読み取ることができる。 ○規則正しい生活習慣 生徒については、前期より更にポイントは減少し、6割弱にまで落ち込んでいる。考えられることは、スマホ・ゲーム機等の所持率が高くなり、夜遅くまでそれらを使用している可能性があるということであり、その使用に関する指導のむずかしさが保護者のポイントにも表れているのではないだろうか。 ○ルール・マナーの遵守 前期に引き続き、この項目については三者とも意識が高く、生徒には「良き人であろう」とする心があり、またそう思う心と育てる教育を学校・家庭・地域それぞれで取り組んでいると考えられる。	○あいさつ 生徒会執行部の提案する各専門委員会によるあいさつ運動はもちろん、教職員のあいさつ運動等、気持ちの良いあいさつができるよう、学校全体で取り組むことが大切である。 ○規則正しい生活習慣 現在生活委員で取り組んでいる、「スマホ・ゲーム機の使用に関する提案書」の作成や、学校全体でスマホ・ゲーム機等に関する映像を視聴する機会を作るなど、生徒や保護者に対する啓発活動を行うことが大切である。 ○ルール・マナーの遵守 道徳を中心に、学校の教育活動全体で、他人とのかかわりの中で生きていくための手段や考え方を得る機会を与えることが大切である。
教育相談の充実	○研究・研修も大切だが、もう少しゆとりを持った日程にする必要がある。生徒と関わることでできる時間を増やすことのできるカリキュラムにする必要がある。	○全て高い評価になっている。日頃からの人間関係がよいことがうかがえる。後期もしっかりと生徒と向き合い、寄り添い、共に学ぶ姿勢で関わることを継続させたい。	○すべての項目で85pを超えており高い水準で推移している。教師と生徒とのつながりや信頼関係ははっきりとわかる部分であるのでここが常に90p以上維持できるように普段から声かけをさらに増やしたい。	○生活ノートへのコメント ○休憩時間等での声かけ ○家庭訪問の実施 ○傾聴の意識を高める

No. 4

評価項目	平成27年度 具体的な手立て	平成27年度(前期) 評価の分析	平成27年度(後期) 評価の分析	平成28年度 具体的な手立て
	○これまでの各学年での校外学習や進路学習等への取り組みをキャリア教育的な視点に加え、再編・充実させることにより、生徒の進路選択に対する意識を向上させる。	○生徒の進路選択に対する意識及び学校の指導に対する評価は昨年度と大差なく、取り組みの成果は概ね出ているのではないかと考えられる。	○生徒の進路選択に対する意識及び学校の指導に対する評価は前期と比べ、かなり肯定的な評価が増えており、各学年での取り組みの成果も定着していると考えられる。	○校外学習や進路学習をはじめとして、多くの場面でキャリア教育的な視点に加え、再編・充実させることにより、生徒の進路選択に対する意識を向上させる。

自ら将来を展望し目標を持てる進路指導	により、生徒の進路選択に対する意識をより高めた。 ○生徒と保護者間の進路に関する意思の疎通、進路に対する会話の場を増加させるため、保護者と生徒とでテーマを共有できる活動や取り組みを設定したい。 ○長期的な視点で計画的な支援を行うために「個別的教育プラン」の活用が有効であるとの意識を教職員が再認識する必要がある。	かと思われる。オープンメグループへの参加も多かった。 ○生徒と保護者の進路に関する意思の疎通、進路に対する会話の場は前年度に比べかなり向上しており、望ましい結果となっている。 ○「個別的教育プラン」の活用や指導にあたっての意識は前年度に比べかなりの上昇がみられており、全体的に良好な状況に向かいつつある。	取り組みの成果が小さく表れていると考えられる。 ○保護者の進路指導に関する評価は、前期に比べ若干下がっているが、全体的には概ね満足できる結果になっていると考えられる。 ○「個別的教育プラン」の活用や指導にあたっての意識は前期に比べて下降しており、意識を高め有効活用していく方が必要と考えられる。	状に対する意識をより高めた。 ○生徒と保護者間の進路に関する意思の疎通、進路に対する会話の場を増加させるため、保護者と生徒とでテーマを共有できる活動や取り組みを設定したい。 ○平成27年度同様、長期的な視点で計画的な支援を行うために「個別的教育プラン」の活用が有効であるとの意識を教職員が認識し、生徒の指導に更に上手く役立てていく工夫をする必要がある。
学校公開・情報の提供	【参観授業公開】 ○4月の参観授業日には、授業を公開する。 ○1年保護者には、4月の学年懇談会で、年間予定の中で参観日の予定も告げ、小学校と違いを意識してもらう。	○生徒 平成25年度までは肯定的評価が低かったが、昨年度より向上になり、今年度もその状態が維持できている。家庭内でのコミュニケーションは子どもたちにとって非常に重要なので、学年便りや懇談会等で保護者にもこの結果を伝え、さらに協力が得られるよう促したい。 ○保護者 「学校は、参観授業や公開授業などに、積極的に取り組んでいる。」の項目の肯定的評価が94.3%と、かなり上がっている。各種たよりや情報メール等による啓発活動、アンケート等の実施など、活気ある取組の様子が保護者に浸透しつつあると考えられる。今後も、土曜授業や文化祭などへの取組をとおして、活気ある開かれた学校を目指したい。 ○教職員 100%とはならなかったものの、かなり高い数値を示している。ホームページ・情報メール・各種便り等積極的な情報発信活動が定着し、自覚が深まっていると考えられる。	○生徒 「私は、学校であったことや様子を、家庭で家族によく話している。」の項目について、わずかではあるがポイントが上がりA評価に近づいている。学級指導に加えて、道徳や心磨きなどの教育活動に力を入れることで、生徒の心の安定が図れていることの成果の一つと考えられる。 ○保護者 「情報提供について」「参観・公開授業について」の2項目とも、前期とほぼ変わらずA評価であった。活気ある学校の取組が浸透してきている結果と思われる。 ○教職員 96.7%と、さらに100%に近づいてきている。地域・保護者との関係づくりのためにも、開かれた学校をめざし多くの教員で啓発に努めていきたい。	○ホームページ・情報メール・各種便り等、適時に情報提供をする。○参観授業・学校公開時等に工夫ある授業づくりはもちろんのこと、環境美化や掲示物の充実等にも気を配り、活気ある本校の取組を知っていただく。 ○学年・学級懇談会も情報提供の有効なチャンスの一つとして、内容を工夫する。
地域行事への積極的参加	○生徒 ・ボランティアの広報活動を積極的に展開をし、生徒の意識を上げていく。 ・生徒会執行部が部長会や生徒評議員会などで参加を呼びかけてもらう。 ・証明書を発行し生徒の承認されることの自己肯定感や満足度を上げ、リーダーを増やしていく。 ・参加者アンケートの活用。 ○保護者 ・通信やHPなどで保護者にも参加の様子を伝えるようにする。 ○教職員 ・参加が負担に成りにくいような参加体制を整えると同時に、今後も「学校と地域との良好な協力関係を保っていくことで、生徒へ返っている」という全教職員が共通理解をしっかりと持てるようにする。	○生徒 ・ボランティアの広報活動や委員会・部活動などの協力により、生徒の関心は8P程度上がった。今後も生徒会執行部や委員会、部活動などリーダーとなる生徒の自主的参加を促し、さらにリーダーを増やしていくように取り組むと同時に、周囲の生徒を巻き込んでいけるような雰囲気、環境をさらに整えていく。 ○保護者 ・例年90%を越え学校側の活動に高い理解を示している。保護者や地域の期待が継続していき、通信やHPで活動の様子を伝えるとともに、地域行事などで活動の見える化を進めていきたい。 ○教職員 ・地域行事や祭りなどでの連携は8ポイント程度下がっている。休日や夜間の補導など勤務時間外の活動が多いので、負担にならないようにする。継続的に参加しやすい職場の雰囲気や環境を整えていく。	○生徒 ・前期より若干ポイントが下がったものの、前年同期と比べ約15P程度高い。積極的な広報活動や生徒会、部活動などの参加が増えたためと考える。また参加多数の生徒を表彰したが効果は不明。参加アンケートがあまり実施できていない。 ○保護者 ・90Pをキープして依然高い評価を得ている。PTAと協力体制が進んでいくことに加え、広報活動により様子を伝えていることが評価を上げている。 ○教職員 ・前期に比べ約7ポイントの増加。スクリーン、地域行事や祭りの補導などが多くあったことが要因と考えられる。引き続き、勤務時間外の補導やボランティアなど負担にならないようにする。継続的に参加しやすい職場の雰囲気	○生徒 ・ボランティアの広報活動を積極的に展開をし、生徒の主体的意識を上げていく。 ・生徒会執行部が部長会や生徒評議員会などで参加を呼びかけてもらう。 ・証明書を発行し生徒の承認されることの自己肯定感や満足度を上げ、リーダーを増やしていく。 ・参加多数の生徒の表彰を継続する。 ・参加者アンケートの活用。 ○保護者 ・通信やHPなどで保護者にも参加の様子を伝えるようにする。 ○教職員 ・PTAとの協力体制を進めていく。 ・参加が負担に成りにくいような参加体制を整えると同時に、今後も「学校と地域との良好な協力関係を保っていくことで、生徒へ返っている」という全教職員が共通理解をしっかりと持てるようにする。
特別支援教育	○生徒固有の課題をきちんと分析し、その生徒に合った対応のしかたが望まれている。ネットワーク会議等、校内外の関係職員、機関との連携がより大切だと思う。	○特別な支援を必要とする生徒への担任・学年の意識が高い。 ①学校規模も小規模であるため全生徒の把握がしやすい環境にある。 ②個別的教育プランの活用意識が高まってきている。 ③特別支援コーディネーターを中心に、ネットワーク会議・分掌会などで機能している。 *2学期以降、他の会議でも活用していく。	○特別な支援を必要とする生徒への担任・学年の意識が高い。 ①学校規模も小規模であるため全生徒の把握がしやすい環境にある。 ②個別的教育プランの活用意識が高まってきている。 ③特別支援コーディネーターを中心に、ネットワーク会議・分掌会などで機能している。	○基本的に、昨年度の取り組みを継続していく。 ○個別的教育プラン活用の注意点 ・新1年生へは、生徒固有の課題を早期に分析し、3年間のベースを作る。 ・新2・3年生は、今までのデータを繋げて、ビジョンをもつ。
安全で気持ちの良い学習環境づくり	○教職員による安全点検の結果を把握し、修繕等の処置をすみやかにこなす。学校での対応が難しい場合は、教育委員会に働きかける。	○学校の施設・設備は、安全な状態に保たれているという生徒評価が、昨年度前期より下がっている。西館トイレは修繕をし終えたが、プールの老朽化は、修繕してもなかなかきれいな状態にならないことも一つの原因と思われる。心みがき清掃等での取組の成果もあり、学校の施設・設備を大切にしているという生徒評価は高い。保護者の評価は毎回80%超である。保護者と共に行うスクリーン等を通して、学校の施設に関心を持っていただけたとありがたい。教職員は、毎月の安全点検を行い、校内での修繕を素早く対応していることが、高評価につながっていると思われる。	○生徒と保護者の評価は、前期と比べ同程度である。本館、西館の施設・設備はかなり老朽化しているが、心みがき清掃等の取組の成果もあり、生徒は施設を大切に使用してくれている。教職員の評価は少し下がってはいるが、A評価である。安全点検等の結果に対応しきれないのかもしれないので、しっかり対応していく必要があると考える。	○安全点検の結果に素早く対応する。校内では対応できない修繕は、市教委へ要望していく。耐震化工事もあり、施設・設備の状況がかなり変わってくると思われるが、安全に学校生活をおくることができるよう、28年度は特に配慮する必要がある。
災害時等の危機管理	○生徒、保護者の学校の防災や安全へ指導対応、対策の評価が、80パーセントを超える結果となっていることから、学校側の取り組みが評価されていると考えられる。特に、生徒の防災・安全に対する評価が、平成24年度、平成25年度と年度が進むにつれて向上していることから、学校、地域、家庭での防災や安全に関する取組や声かけ、日頃からの話の中での話題提示により、防災、安全意識が向上しているものと考えられる。 ○学校側の評価ポイントが、生徒や保護者の評価に比較して、10ポイント程度低い点については、さらに、防災や安全に取り組む必要性を感じている教職員が多いことを表している。防災や安全については、直接、生命にかかわる重要な事案であることから、避難訓練時の関係機関(消防署、警察など)との連携、交通安全(特に自転車)教室の開催や、緊急時の教職員の対処、対応の確認、実習など、具体的な取り組みを年度当初から計画的に実践していくことが必要である。	○生徒の災害時や不審者対応など、安全に向けての意識はこの2年間高いレベル安定している。この点については、昨年度と同様に、学校での避難訓練や学活、道徳など通じての学習や社会情勢に応じた家庭、地域での災害時対応、防災事業などの取組の推進が効果的に働いていると思われる。 ○学校の防災や安全についての取組に対する保護者の評価は9割を超え、学校の取組が概ね理解、評価されているようである。 ○教職員側の防災、安全についての指導対応の自己評価は年々向上しているものの、まだ8割に満たない現状が見受けられる。挨拶運動を兼ねたPTAと連携した交通指導運動等の新たな取り組みを本年度より実施しているが、さらなる防災、安全に関する意識向上に繋がる研修や計画的な取り組みが必要であると考える。	○前期と同じく生徒の災害時や不審者対応など、安全に向けての意識は高いレベルで安定している。この点については、学校での避難訓練や学活、道徳など通じての学習や社会情勢に応じた家庭、地域での災害時対応、防災事業などの取組の推進が効果的に働いていると思われる。 ○学校の防災や安全についての取組に対する保護者の評価は9割を超え、学校の取組が概ね理解、評価されているようである。 ○教職員側の防災、安全についての指導対応の自己評価は、7割程度の現状が見受けられる。挨拶運動を兼ねたPTAと連携した交通指導運動等の新たな取り組みを本年度より実施しているが、来年度さらなる防災、安全に関する意識向上に繋がる研修や計画的な取り組みが必要であると考える。	○生徒、保護者の学校の防災や安全へ指導対応、対策の評価が、80～90パーセントの肯定的な評価結果となっていることから、学校側の取り組みが、特にこの2年間で評価されていると考えられる。 ○生徒の防災・安全に対する意識が、平成26年度、平成27年度と90パーセントを超えていることから、学校、地域、家庭での防災や安全に関する取組や声かけ、日頃からの話の中での話題提示により、防災、安全意識が向上しているものと考えられる。 ○学校の教職員側の自己評価ポイントが、生徒や保護者の評価に比較して、昨年度同様に約10～20ポイント程度低い点については、さらに改善の余地が残されていることを表していると言える。本年度は、PTAとの協働による月1回の朝のあいさつ運動・交通指導や一斉下校時の教職員全員による交通指導対応、3学期の土曜授業と合わせて行われる予定の交通安全教室など、昨年度より特に交通安全への取り組みへの工夫改善がなされている。また、近年、緊急対応を要する事故事案への対応の仕方などの校内研修も定例化しているとともに、内容の充実も図られている。しかし、教職員の評価からは、直接、生命にかかわる重要な事案であることから、さらに学校における防災や安全に取り組む必要性を感じている教職員が多いことが分かる。 ○平成28年度については、避難訓練時の関係機関(消防署、警察など)との連携により、直接、指導や助言をいただいたり、関係機関による教職員の緊急時の対処、対応方法に関して、直接的な指導を受ける機会を持つ研修会を開催するなど、緊急時の安全確保のための教職員側の効果的な取り組みを、各分掌が連携して計画的に実践していくことが必要である。また、学校側の防災・安全の取り組み(行事)の際には、必要に応じて地域の方にも声をかけ、参加していただく、地域の防災・安全行事に、生徒や保護者、教職員ができるだけ参加するなどの地域協働、地域連携の取り組みをより推進していくことも課題である。